（演習②）医療的な視点のマネジメント

末期癌利用者の支援

橋本昌子さん（仮名）75 歳

橋本昌子さんは、胃がんの末期。１か月ほど前から食事がわずかしか摂れなくなり、食べても戻してしまうため受診。胃がんの末期との告知を受け入院中だが、衰弱してきている。

夫（77 歳）との２人暮らしで、子供はいない。橋本さんはがんで入院した夫の母親を介護した経験から、自分の最後は自宅で延命治療をせずに迎えたいと、かねてより夫に伝えていた。夫も妻の希望通りに自宅で介護し、最後を看取りたいと思っている。

夫は近所の病院で警備をしているときに、その病院のメディカルソーシャルワーカーに相談し、介護支援専門員を紹介された。

主介護者である夫は、がん末期で入院していた母親の経過は病院でみていたが、在宅でがん末期を看取るのは初めてであり、自分にできるのか不安を持っている。

初回の面接時には要介護認定は申請中であったが、その後、要介護３（令和７年８月 20 日～令和８年８月 31 日）と認定された。